

山行報告

‘08 夏山祖母谷温泉集中登山

八方～唐松岳～祖母谷温泉

日時：8月22日（金）～8月25日（月）3泊4日 L：山本 SL：砂川（美）・船津

参加者：金島・中嶋・三木・大谷 参加者数：7名

コース：8月22日 JR加古川駅 7：21 発～JR白馬駅 15：42～八方温泉（民宿ますや）着
16：15～

8月23日 民宿ますや発 8：00～八方池山荘 9：10～丸山ケルン 11：40（昼食）12：
15～唐松山荘 12：40 着～ 8月24日 唐松山荘発 5：10～水呑場 8：
00～大黒鉾山跡 8：35～餓鬼山 8：50～餓鬼山避難小屋 11：20（昼食）
12：00～餓鬼の田圃 14：00～南越 14：55～祖母谷温泉 16：30 着～

8月25日 祖母谷温泉発 8：30～樺平 9：10～宇奈月 12：00

★夏山（唐松－祖母谷コース）に参加して

中嶋

8月22日 天気は晴れ、JR加古川駅より7名はJR青春キップと特急しなのを利用して一路白馬村を目指す。今回の山行では、3日目のロングコースが心配であったが、トレーニングも積んでおり何とかなるだろうという気持ちでの参加であった。

15：42 白馬駅に到着。曇り空の下、宿の主人の車で今晚の宿”八方民宿ますや”へ行く。夕食まで町内を探索する。冬季オリンピックの名残があり、山麓にはリフトやジャンプ場が見える。天気予報では明日、明後日も雨マークであった。8月23日 6時起床曇り空でガスっている。立山組より“大雨で風も強い”との連絡が入る。

8時の出発時には小雨が降り出した。山本リーダーより3案が提示されていた。

一案、当初の計画どおり（唐松岳山荘に泊まり、祖母谷コースで祖母谷温泉へ）

二案、唐松岳山荘に泊まるが、来た道を引き返しJR白馬駅より糸魚川経由で祖母谷温泉へ
三案、八方尾根をトレッキングして、前日の宿泊宿にもう一泊し、JR白馬駅より糸魚川経由で祖母谷温泉へ。どの案になるか現況判断ということで、ゴンドラ、リフト、リフトと乗り継いで八方池山荘（1、850m）まで上がる。本格的な雨となり視界が数m～数十mしか利かない。人気スポットで初級者コースのためか、周りは多くの登山客がいる。

9：15 山本リーダーを先頭に登山始める。視界が利かないため、滑らないよう下を向いて歩く。道は、石が敷いてあったり、太い板が敷いてある。水溜りがところどころ有るが、かまわずに歩く。

多くの登山者が登り、また下山してくる”こんにちは”と挨拶を交わす。第二ケルン、第三ケルンを通り、八方池に立ち寄るが、雨のため対岸が見えず、池の大きさも判別できない。多くの登山者がベンチで休憩おにぎりを食べている。我々は写真を撮り即



出発する。11:40丸山ケルンで休憩し昼食を取る。小雨となり、少し視界も開け近くの山並みや残雪が見られた。ここまで来れば、又この状況下では唐松岳山荘まで行けそうである。途中会った下山者に聞いても”山荘まであと1時間位“とのことであった。休憩後すぐ、雷鳥の親子4羽を見かける。

12:40唐松岳山荘(2,630m)に到着。各自汗や雨で濡れたカップ、衣類、手袋、ザック等を乾燥室で乾かす。その後ウイスキーで乾杯ししばし歓談した。外を見ると遠くの空で晴れ間が見られたが、天気予報は低気圧に覆われ雨マークであった。5時より夕食を済ませ、あすの行程をどうするか小屋のガイド(中川さん)に祖母谷コースについて聞く。距離は12km、道は昨日も登山者が通っているのでトラブル箇所はない。

途中に避難小屋があるここが中間地点。11時頃までに着けば良い。2時までに出発できなければ、その日は避難小屋に泊まる事、道は草刈しているのだからわかり易い。

もし事故があった場合、そこでビバークし2人が連絡に来る事、山荘から応援者を出す。等のアドバイスを受けた。祖母谷コースに躊躇する人もいたが、全員計画通り決行することになった。300人収容の山荘も比較的空いており、ゆっくり寝られた。外ではテントが4~5張り見られた。

8月24日 4時起床。ストレッチ体操して5時過ぎ小雨の中出発する。直ぐまた雷鳥を見かける。

私は下山道は2~3人が並んで歩けるような道を想像していたが、実際は狭く、けもの道のような道で、おまけに左側は断崖絶壁である。数箇所くさりに掛りながら歩く、こんな道が延々と続く、周りの木がハイマツからダテカンバ、白樺、ブナと変わり穏やかな道に入って2時間40分程で、大黒銅山跡に着いた。船津さんが水くみに行っている15分間休憩する。これより、餓鬼山への約300m再登コースとなる。この道がまたやせ尾根で両側は木々に覆われ底の見えない断崖絶壁が続く、なかに木の根っこが絡み合った所もあり、慎重に進む。幾つもの偽ピークに騙され、なかなか頂上にたどり着かない。少し雲が切れて周りの山々や両側の谷底を流れる川が見える。

北アルプスの山奥にいることを実感する。頂上で少し休憩する。これより下りとなり、今度は梯子の連続である。幸い谷間がガスって見えないが見えたらさぞかし怖い所だったろう。緊張の連続である。樹林帯の中の道を行くと餓鬼避難小屋に11時過ぎに到着した。朝、昼兼用の弁当を食べる。

休憩したら余裕が戻ってきた。写真を撮りカップを脱いで出発する。

ブナ林の木々の間で道は判り易いが雨でえぐられた歩き難い所、岩にコケが生えて滑りそうな所と行けども行けども快適な道は出てこない。水場で各自水を補給して元気を出して歩く。やっと川音が聞こえて来て、川沿いの道を降りていくがこの道もガレ場ばかりで難所だ。祖母谷温泉まであと30分のカンバンがありもう一息と頑張るが、その後もロープの張った急坂、えぐれた木根等ありこの場を脱出するのに1時間ほど掛かる。やっと祖母谷温泉に通ずる橋に出た。握手して健闘をたたえあった。立山組が上がってきたので合流。4:30小屋に到着、濡れた衣類を脱ぎ露天風呂に入る。夕食は4パーティー合同の賑やかな食事となった。

8月25日 朝起きると足の筋肉がパンパンに張っている。立山組と行動を共にする。8:30小屋を出発し樺平駅まで歩く。1時間ほど猿飛峡を見学。

10:43トロッコ列車で宇名月温泉へ、皆で昼食を食べた後、13:10富山電鉄で富山へ阪急バス、阪神、山電と乗り継いで23:40帰宅した。

今回の夏山は雨のため、景色が堪能できなかったが、険しい長い山道を踏破した達成感は得られました。楽しい山行を、有難うございました。山本リーダーご苦労さんでした。



ちょっと一言

唐松岳～祖母谷温泉コース

大谷

地図の説明によればこのコースは難所もいろいろあり、健脚者以外は利用しないほうが無難と書いてある。アルプスの経験は殆んどない私、小雨決行、不安ばかり募る。唐松岳から餓鬼山避難小屋までが非常に長く感じられ、途中からしんどくてたまらない。バテ気味でストックを両手でついて喘ぎながら何時足が動かなくなるか？倒れるのではないかと必死で歩いていた時、六甲トレーニング中に舩賀さんが言われていた「とにかく足を一步、一步前に出していけば進む」の言葉を思い出し、そのようにして何とか避難小屋に辿り着いた。朝食抜きだったので、小屋でお弁当を食べるとその後、シンドさもうすらいで、体も慣れてきた。(シャリバテ?)でも最後の最後まで気の抜けない悪場が続いていたコースだと思います。無事、下山出来たから言えるのですが、難コースでお天気も悪く、景色も見えなかったが、バラエティーに富んでいて少し面白く、とても充実した山行でした。



蓮華温泉～白馬岳～清水岳～祖母谷温泉

日時：8月21日（木）～25日（月）4泊5日 L:舂賀 SL:上田・今山
参加者：河合（由）・川鶴・北川 参加者数：6名
コース：8月21日 加古川 22：08～大阪 22：58（北陸線急行北国）23：27～
8月22日 糸魚川 5：28～糸魚川発バス 8：15～蓮華温泉 9：55～蓮華温泉 ロッジ
10：00（散策準備）10：30～蓮華の森 10：40（散策）13：10～温泉 ロッジ
8月23日 温泉 ロッジ 発 5：00～天狗の庭 8：20～大池山荘 9：05（休憩）9：20～
雷鳥坂付近 10：00～小蓮華山 11：40～三国境 12：35～白馬岳 13：30
～白馬山荘 13：50
8月24日 白馬山荘 発 5：10～小旭岳麓 6：00～清水平付近 7：00～清水岳直下
8：10～避難小屋 10：45（休憩）11：10～百貫の大下り開始 15：10
祖母谷温泉到着 18：00 *（小休止を度々摂る）
8月25日 祖母谷温泉 発 8：50～樺平 9：35～宇奈月 11：20～（富山地方鉄道）新魚津
12：44～JR魚津 13：10～富山 13：34～福井 16：44～敦賀 17：40～
加古川 21：06

★ ロングコースにチャレンジ！

北川

私が、このコースに決めたわけ、それはJR寝台車で行けるとわかったから。なんせバスに弱いので行きたい山も、まず、それが心配、ましてや夜行バス利用なんぞ、とんでもない。あとで、これが一番ロングコースと知ったけど、乗り物酔いのつらさより、ましだと思った。

メンバーは、重鎮の舂賀さん、いつもゆったり着実な歩き方に、全幅の信頼を寄せており大安心！。ただ一人50代の若きエース今山さん、重い共同装備を担ぎ、最後尾をがっちりガード！。知将上田さん、PCを駆使して微に入り細に入り、あらゆる情報を調べ尽くしてくれるデータバンク！。繊細かと思えば大胆で、面白い自由人の川鶴さん。しゃきっと無駄なく、いいバランス感覚で、さりげない気配りが出来る河合さん。

そして、私は、皆の一番の荷物かも知れん。「ちょっと休んで！。水が飲みたい！」を、アピールする係になるだろうと自認している。

8月21日、大阪始発23：27急行「きたぐに」。私と川鶴さんは寝台車、山へ行くのに、なんちゅう横着など笑いかも知れんが、年相応に体力保持の用心に過ぎたことはない。5,000円で浴衣・スリッパ付き、清潔なシートと毛布、降車駅近くなると、車掌が起こしに来る。

5時間ぐっすり眠った。

8月22日、午前5：28、糸魚川駅に降り立つ。蓮華温泉行きのバスを待つ間、散歩がてら日本海の見える展望台へ。明るい瀬戸内海を見慣れている目には、暗く淋しい感じ。この向こうが北朝鮮かと、拉致された家族の悲哀を思い浮かべる。近くの公園の東屋で、自転車でツーリングの若者たちが野宿していた。夕べは小雨が降りつづき、かなり冷えたであろうに、青春をエンジョイしている姿に、ほほえみのエールを送った。

私も学生時代、親友とユースホステルの泊りを重ねながら、2週間、九州を一周した時、昼は公園の噴水と、あんパン一つであったけど、心は最高に楽しかった。

さて、バスに1時間半ゆられて蓮華温泉に到着。ザックを置き、ウォーミングアップを兼ねて、近くの「蓮華の森」の散策。小鳥のさえずりを聴きながら、美しい原生林の中を歩めば、まるでデートのようなルンルン気分。ところが甘く見くびっちゃいかん。

やはり北アルプスの一角、急な岩場あり、滑る木道ありで、軽い手さげに水筒と菓子を入れてぶらさげていた私は反省した。三ノ峰の刈込池でも、そうだったがサブザックは、山周辺を歩くなら、安全のために必ず背負うべきだ。

蓮華温泉ロッジの部屋は、別料金3,000円を惜しんで男女同室に。手ぬぐい1本さげて、湯けむりと硫黄の匂いが立つ裏山の露天風呂へ登る。ひやあ驚いた！。すのこも何も無い、本当にすっぽんぽんの、まさしく山肌を掘っただけの2m平方ぐらいの野趣あふれる野天風呂。こんなの初めてだ。川湯温泉や湯原温泉の手を加えて露天風呂とは全然ちがう。

男達4人は、さっそく「黄金の湯」に入る。次の「気仙の湯」も登山道のすぐ脇にあり、私らは、通る人が気になって裸になれない。さらに上に登って源泉近くの「薬師の湯」に浸かる。岩で囲まれた温泉は透明なブルー、熱い、小虫がいっぱい。だけど見よ！。この開けた天地の絶景、広い空と眼下の森、温泉でゆだった体を美女2人、一糸まとわぬ姿で岩に横たえる。涼しい風と清浄な空気に、全身が気持ちいいと叫んでいる。

部屋に戻り、皆で飲むビールは、めっちゃおいしい。存分に飲んで男性陣は、7時すぎ早々に「こてん」と寝てくれた。私は、汗で崩れた顔を乳液で修正したり、着替えたり、女のたしなみに少し時間がかかる。

話し声で目が覚めた。灯りがもれないよう布団の中でヘッドランプをつけ、腕時計を見たら9時40分だった。談話室の方で、別グループが盛り上がっているらしい。しばらく辛抱していたが、寝つけない。私は憤然と起きて、彼らに注意しに行った。「みんなの迷惑を考えてね。消灯なのに、もっと話したかったら、外へ出なさいよ。」次の日、舛賀さんに話したら、「ようやるわ。おれも気になったけど、よう言わんで。」とあきれられた。昔の職業意識が出たかな。

8月23日、昨夜のうちに朝の弁当をもらっていたので、5時、小屋の前でストレッチをし、雨の中すぐ出発した。ガイドブックやミーティングで仕入れた予備知識をたどりながら、いきなりジグザグの急登かと覚悟して構えていたが、なんじゃらホイ、これは散歩やんか。猛暑の中、高御位山縦走や六甲西半縦のボッカトレの半殺しに比べれば、ずっとイージーだ。気温の差(32℃と9℃)が、これだけ体力の消耗にちがいがあことを実感した。天狗の庭を抜け、白馬大池山荘あたりで雨がひどくなり、雨ズボンも着用する。

小屋に入ると休憩料金があるので、外のひさしの下でがまん。女性は、ここのトイレがきれいなので利用するといいい。

小蓮華山(2,769m)頂上にあるとの地蔵の祠や鉄剣は、岩場の崩壊防止柵で見られないうが、雨の間に間に、ちらりと雪渓がたくさん残る雪倉山が美しく見えた。いつか雪倉山へ登りたいな。いたく気に入ったあの蓮華温泉の野天風呂にも、もう一度浸かって。

三国峠(長野県・新潟県・富山県)を越える尾根道は、横風が相当きつく、体重に自信のある私でもぶっ飛びそうになりかけ、ごめんなさいの低姿勢と杖にすがり(ストック)、風よけで下ばかり見ていたら、岩石の色が、所により茶褐色から白い大理石調から鉄色と変化するのが興味深かった。

時間的にすれば、もうそろそろ白馬山頂(2932m)のモニュメントが見えてくる頃なのに、なかなか近づかない。宿のノートに8月19日、白馬岳の土砂崩れで3人が遭難した

3時間後に、そこを通過した人の記帳があった。学者によると、先の新潟中越地震で、この辺りの地盤全体がゆるんでいるとか。おそろしや！。どうか無事に行かせ給えと祈る。

まだかまだかとしびれを切らしかけた頃、ぼやーと山頂の円い塔が見えてきた。思えば去年、女友達4人とアイゼンで雪渓を登り、ここでお澄ましの記念写真を撮った。今年は、バンザイのポーズで写したが霧が濃く、ちゃんと撮れているかどうか。山頂から20分ほど下って、午後1時50分、赤い屋根の白馬山荘に着く。7時間弱の予定が、8時間かかったのは、雨のせいもあるだろうし、ゆっくりリードしてくれた舂賀さんのおかげ、全然疲れなかった。



受付にはストーブが焚いてあった。土・日曜日は労山の割引カードが使えない。部屋を二つもらえたので、河合さんと気を使うことなく着替えたり、荷物の整理ができた。

雨で濡れた衣類・靴を乾燥室に干し、炊事場で湯を沸かし、コーヒーにウィスキーを入れて温まった。2人分の餅入りの甘いぜんざいを、6人で工夫しておいしく頂いた。

夕食は、海老フライや鯖の味噌煮などカロリーたっぷりだ。明日の朝食はパンだそうなので、残ったご飯と福神漬をビニル袋に包み、私だけのおにぎりを作った。これは先輩に教わった、食べ物に対するもったいないであり、ビバークで生き残る知恵でもある。

テレビは、北京オリンピックで日本勢のシンクロナイズスイミングの健闘を放映している。明日の天気予報は雨変わらず。果たして祖母谷温泉集結が可能なのか。ここから20km余りのロングコースの最後のボーナス、「百貫の下り」と警告する、落差1,000mの一気に下りが、今回の最大の課題だ。この雨で、安全かどうか誰も分らない。

皆わやわや、自分の危惧することや希望を言いたい放題に出す、民主的だなあ……………。

結局のところ、リーダーの舂賀さんが、「いろいろ心配してもしゃあない。明日のことは、明日に考えようや。」と、ファジーなまとめでくくる。なるほど、よけいな取り越し苦労するより、今はビールを楽しく飲む。男の心の広さ（鷹揚さ・いいかげんさ）に、私は笑い納得した。干した物も乾き、明日の用意をして就眠7時半。くだり

8月24日、午前5時、雨、気温5℃。外で朝食をとる都合だったが、無理みたいなので、靴をはいた土間で、湯を入れたアルファ米を半分食べ、アミノバイタル3000を飲む。入念にストレッチをして、10分遅らせて出発。旭岳 (2857m) の南側の険しい岩場をトラバース。神経が疲れるなあ、いつまで続くんかと文句言い始めたら、すぐ終わった。

雨が止んだそこから清水 (しょうず) 平までは、色々な高山植物のお花畑。トリカブト・チングルマ・ミヤマキンバイ・コマクサ・マツムシソウ・ハクサンフウロ・ニッコウキスゲ・他にもたくさんたくさん、名前を覚えられなくてごめんね。

おっ！鎖場がおいでなすった。私は去年、知らぬが仏、無謀にも「天狗の下り」と言われる30m直降下の鎖場とか、超危険な「不帰のキレット」の蟻の横ばいを経験させられたので、何回かの鎖やロープは、おびえることなく遊園地のアスレティックのようにスリルをわくわく楽しむ。やはり学習は生きるもので、軍手より、やわらかい皮手袋の方が、雨にも滑りにくく良かった。(ホームセンターで安く売っている)

ピクニック気分はここまでで、下り一辺倒は、足がくたびれる。

避難小屋でのコーヒータイムを楽しみに、2時間以上休みなしで距離を稼ぐ。だがいっこうに避難小屋に着かない。

やむなく乾いた道端に座り一服する。おかしいなあ、雪崩で小屋が消滅したんやろかと、いぶかりつつ歩いて行くと、5分もせんうちに避難小屋があった。もう少しの辛抱やったなあ。コンクリートの頑丈な建物で、トイレ有り、鍋などの調理用具類、着がえのための服、トイレトーパーまで常備してある。ゆっくりしたいが、半分の道のりで、すでに10時を過ぎ、あとの行程を考えると急ぎ発たなければいけない。

どのグループも大変だけど、今どの辺を進んでいるんだろうか。どっちみち私らが長い分だけ、一番遅い到着になるやろなと焦る。もしもヘッドランプ使用の「百貫の下り」になったら怖いから、みんな同じ気持ちで黙々と急ぐ。高度が下がるにつれて道を隠すように笹が生い茂り、平泳ぎのように両手でかき分けかき分け前に進む。避難小屋を出てから、祖母谷への表示を全く見かけない、大丈夫だろうか。時たま木に赤い布がくくってあるのや、ペンキを塗った岩を頼りに、たぶん間違っていない、この道しかなかったもんなあ、自らを安心させ、リーダーの後について行く。登りはましだけど、下りはへっぴり腰で、つい慎重になる。舛賀さんは、優しく振り向いて待っててくれる、ありがとう。最小限に迷惑をかけぬよう努力し、転倒だけは避けたい。



濡れて苔むす根っこは、滑るので腰をおろしてまたぐ。ズボンが汚れようが、格好悪かろうが構わない。大木が増え、景色は何も見えず、現在地もどの辺か分らない。

名剣沢の水音が聞こえ、やれ嬉しやもう直ぐかなと期待したら、え？、え？、道が奥へ奥へどこまでも上っていくではないか。本当に道迷っていないのかと、疑問を持ち始めたら、疲労が急にどっと来た。データバンクの上田さんが、資料を読んで聞かせてくれ、まだ山を幾つかトラバースしないと祖母谷へ降りられないとか。頑張らなくちゃあ。

崩れそうな沢渡りに緊張し、膝のバネが立ち上がれないほど硬直しだした。無理すると転びそうになるので、思い切ってストップを申し出る。上田さんが荷物を分けたらと親切に声を掛けてくれたが、自分のザックを担げないなら、山登りの資格は無いと思う。

5分ほど休み、また延々と下りの連続、「百貫の下り」とは、これかと気を引き締めるが、いかん、また膝が痛い。やはり下りは弱いなあ。情けないけど、二度目のストップを願いでる。皆の足を引っ張って申し訳ない。

あ、そうだ。気がつけば急坂の下りに全注意を注ぎ、せっかくのハイドレーションの水分補給を忘れていた。落ち着いてポカリセットを飲み、足に冷却のエアスプレーをかけたら、ぐっと元気が出てきた。つづく沢渡りも、ロープ下りも、すいすいだ。

街中の喧騒をいやがって、山に入った筈なのに、人間くさいショベルカーの機械音が聞こえた時は、いよいよ祖母谷温泉近しと、すごく嬉しかった。

5時ごろ、スキップするような弾む心で林道を歩む。湯けむりの小屋が見えてきた。やれやれ苦行が終わったと皆で握手。他のグループも全員無事に到着してるような。本当によかった。よかったね。

ちょっと一言

「蓮華～白馬岳～祖母谷温泉小屋」山行によせて

川鶴

昨年は自主トレで山行直前になって左膝を痛め不安の中で槍ヶ岳に挑んで、メンバーには大変心配をかけた。今年は6月初めより自主トレに入り、時間をかけて体力アップを図ってきた。何とか全コース無事歩きとおすことができた。目出度し、めでたし。あらためてこの山行を企画推進して下さった関係者、そして支えてくれたメンバー各位に感謝しています。

蓮華ロッジ→白馬岳→祖母谷温泉の全コース、全てが霧と雨の中の山行となり、残念ではあったが、これもまた時が過ぎれば、よい経験として、楽しく美しい思い出となるのであろう。先日来、メールで沢山の写真を頂き、生々しく豊かな表情の勇姿を見せてもらっており、各パーティーの夏山集中登山にかけた素晴らしいドラマを垣間見ることができた。

[ひとりごと]

1. 白馬岳に向う稜線では冷たい強風の洗礼を受け、飛ばされないように声をかけあった。稜線での手の冷たさ寒さは、いずれ到来する冬の厳しさを思ったりもし、また暑い（暖かい）下界のことを懐かしく思った。
2. 山行前から山行地図の中に気になる山名がある。白馬岳→清水岳→**不帰岳**→祖母谷 私だけか！何となく気になる。
3. ガイドマップでは所要時間、白馬岳→清水岳間（1：40）となっている、しかし我々は（3：00）かかった。全般にわたってガイドマップと我々との脚力の差はかなりありそうだ。
4. 霧と小雨のベールに包まれたまま、祖母谷をめざした。清水岳→不帰岳の下りでは、霧と雨に濡れた色鮮やかでさまざまな草花が、群生・咲き乱れるお花畑に、幾度となくめぐり合い、道案内をしてくれた。気になる花トリカブト、霧に濡れて美しい紫色の花の中を度々通りぬけていった。この花は根っこに強力な効き目があるらしい！
5. **不帰岳避難小屋→祖母谷温泉小屋間**

不帰岳避難小屋までは祖母谷への行き先表示が時々現れたが、不帰岳避難小屋通過後は全くなくなった。これから先の道は、この辺がどうやら道らしいと思われる所を五里霧中、無我夢中で進むこととなった。時折、木に吊った赤テープの目印らしきものが現れる。それでも疑心暗鬼ではあるがホツトする。

1～2時間はトラバースが続いている。下りの気配はない。別の山への登り道ではないかとの心配もはしる。地図上でも、時間的にも祖母谷への下りになっててもよい筈、山道も幾分薄暗くなってきた。再度、全員が集まり進む方向に間違いのないことを確認する。再び歩きだした。間もなくすると下り道にはいった。祖母谷への下りだ。元気がでた。祖母谷温泉へと足を早めた。



室堂～雄山～真砂岳～祖母谷温泉

日時：8月22日（金）～8月25日（月）3泊4日 L：渡邊 SL：尾内

参加者：内海・大瀬・竹内・長谷川

参加者：6名

コース：8月22日大阪発 20：20（高速バス）～8月23日富山駅前 5：30～室堂 9：00
～登山口 9：35～一の越山荘 10：30（休憩）10：45～雄山 11：50（昼食）
12：40～内蔵助山荘 14：20～8月24日内蔵助山荘発 5：30～真砂岳 5：45～
雷鳥沢 7：25～室堂 8：25（バス・電車）10：00～樺平駅 15：50～祖母谷温泉
16：35～8月25日祖母谷温泉発 8：30 樺平駅 9：10（猿鳶溪谷）～富山駅 14：47
（高速バス）16：30～大阪着 21：55

★夏山（立山本峰縦走）に参加して

内海

今年こそは、と楽しみに立山へ、が天候不順の天気予報

8/22：霧・ 8/23：曇りか霧一時雨か雷雨・ 8/24：曇りか霧、時々雨・

8/25：曇りか霧、時々晴れ との事、結果はその通りの天候でした。

大阪梅田発の高速バスで富山へ。初めての夜行バスの中で眠ろうにも眠れないまま、早朝に富山駅に着く。身体は意外に元気である。簡単な朝飯を済ませ室堂までの直通バスに乗る乗客は少なく、ゆったりと休息できた。

9時頃に室堂に着いたが室堂ターミナルは登山者や観光者などで人、人、人。雨と霧の空模様であるが、とにかく一の越しを目指す。人ごみのなか標識にしたがい、リーダーの渡邊さんを先導に一步一步とこれからの高さを踏みしめ石畳の遊歩道に行く。この様な悪天候でも登山者でにぎわっている。私もその一人ですが、天気がよければ右に浄土山、左に屏風のようにそびえる立山が見えるはず。ほどなく浄土山北斜面に残る雪溪に出会うが、雨ですべりやすく気をつけながら横切る。やがて石畳の登りはつづら折りのきつい登りで最初の「しんど」がでる。ここをひと頑張りで一の越しにやっと到着し休憩。

さて、ここからは雄山への登りとなる。もろいガラ場の急登りが続き下降する登山者もあり充分気をつけ、ゆっくり登る。途中で門のような大岩の斜面を登り、再びガレた急斜面を登りきると雄山神社の社務所が見え一安心。ここがかっての信仰登山で有名な雄山か。社務所には、お札やお守りの他飲み物など販売、とにかく身体の温もりがほしく汁粉とカップラーメンを買う。「ほっとした、うまかった」。休憩後、雄山神社峰本社のある山頂部を下から拝み、左側を巻いて縦走路を進むが空は相変わらずの雨風。登山道以外は殆ど見えない。雨を覚悟して登ってきたのだから仕方ないが、この高さから周囲の山々が見えないのは残念このうえない。大汝山直下に着く頃、雨風がさらに強くなり左の顔面を叩きつけるが手でかばいきれず、ひらきなおってしまう。ときおりものすごい風が吹くと後ろを向き脚をふんばる事もあった。3,000mの稜線上の風の強さはさすがだ。大汝を過ぎてから誰にも会っていない、みんなどこかの小屋で休んでいるのだろうか。とにかく内蔵助山荘まで頑張るしかない。真砂岳を越え尾根を少し下ると内蔵助山荘が見えた。やっと着いたか。今日は雨風に叩かれた立山山行だった。

明日は少しでも天気が快方になるよう祈りつつ眠る事にしたが、真夜中の凄い雨音に度々眼がさめる。

8/24相変わらずの雨、しかし風はない「これでよしとしよう」。今日は大走りコースを



下る。真砂岳山頂直下から雷鳥沢まで標高差 570m 距離にして 2.5 km を一気に下る。

真砂岳山頂を巻き急峻な尾根上をジグザグに高度を下げて行く。磐ザレの道はすべり易くストックがあつてたすかった。途中登山者が少ないせいか、はい松から出入りする雷鳥を 10 羽ほど見かけ、自然のなかで生き物に出会ふと安心する。この頃になると雨も小降りになり



なり右手の沢筋には残雪が見えるが、足元は浮石の多い不安定なガラ場の長い下りでつかれてきた。これを反対に登るとなると、この急峻をととてもじゃないが無理だ。やがてとゆうか、やっと広い、お花畑に下る。直ぐに沢に出て橋を渡り雷鳥平、地獄谷を見て室堂ターミナルに到着。

雨風天候でしたが「日々これ好日」と思います。メンバーの皆さんありがとうございました。

66 歳という歳をむかえ「昔だったらこの歳といえは本当に爺と婆だったが、自分の年齢は自分で決めていい時代になっている。自分の体調を考え活動すべきですが、このメンバーの心身ともの若さに私も負けずに行動したい。」

ちょっと一言

夏山合同トレ：芦屋～ロックガーデン～有馬 三木(勉)

登山の効用は様々です。まず、体力の維持、持久力、精神力、忍耐力の向上、協調性、その他挙げればきりがありません。

自分にとっては高血圧がほぼ正常にもどったようです。楽しみながら体が健康になるこれほど有難いことはありません。高御位山遊会に入会して芦屋のロックガーデンで 3 回訓練しましたが、前回、前々回、に比べあまり疲れませんでした。



会員だより

★ 春にパソコンを進められてまずは教室へ、簡単といわれるがタイピングに苦労しました。初心者コースから初級コース、ワードコースと駆け足で今日終了しました。指と頭をつかえばボケないと言われ、ほこりを被らない程度に使おと思います。 大瀬正俊

★ 「田舎暮らし」「海外ロングステイ」「雨水、太陽光利用エコ生活」「自然農法」定年を迎える頃から夢をふくらませ、あれやこれやと走りまわったけれど、行きついたのは生まれ育った地での「山の会」を作ること —— 夫。

私は子供達の結婚、新しいお付き合い、孫が次々生まれ最優先で超多忙、たまに飛び入りで行く山行の後は足が痛くて落ち込んだり——。

少し時間に余裕ができた頃には歳が待ってくれず、でもトレーニングとみんなのおかげで昨年が続いて今年も夏山に参加でき、感謝で ^o^0^ す。 砂川(美)

★ 『絵手紙展』見に来てください。10月16日まで加古川駅南JA会館1F 加古川教室 21人と私を含め96点展示しています。 北川